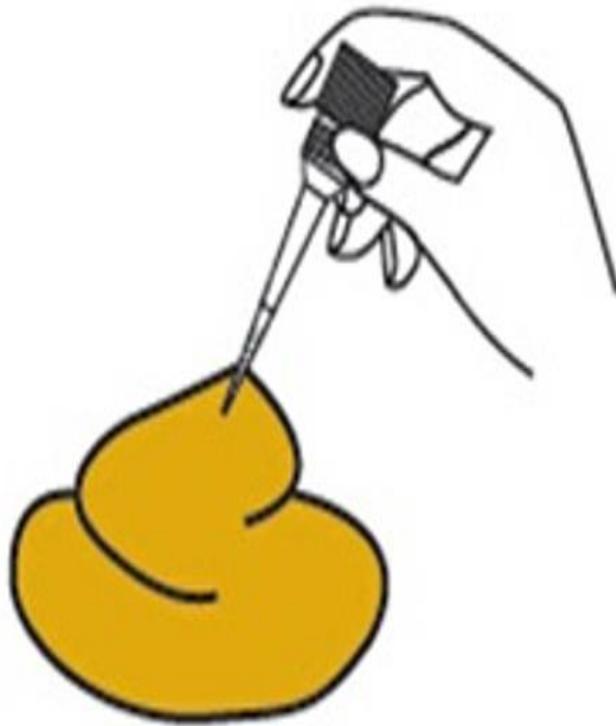


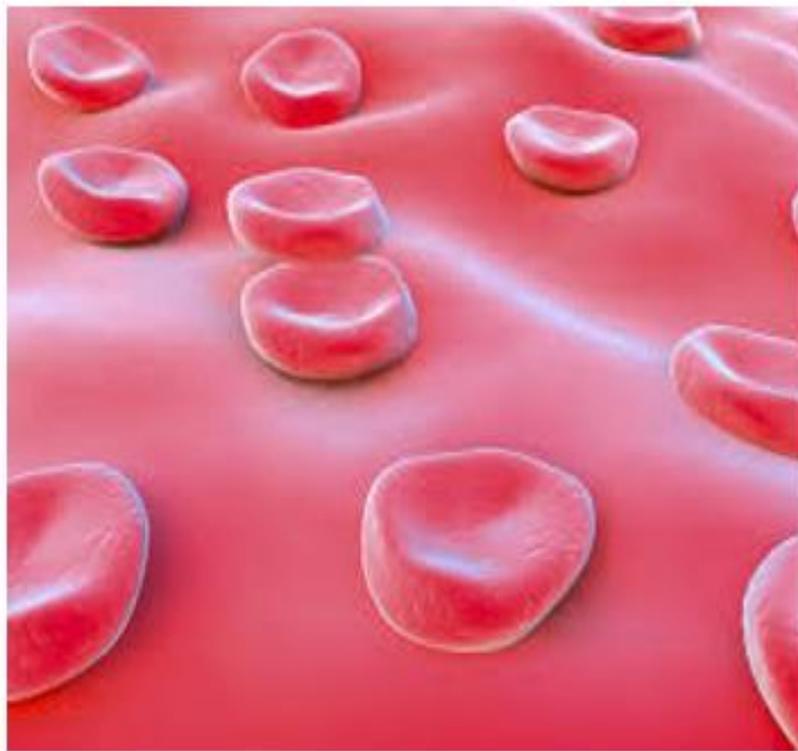
QA 便潜血検査

便の一部を小さな棒で採取し、その中に目に見えない血液が混じっていないかを調べる検査です。



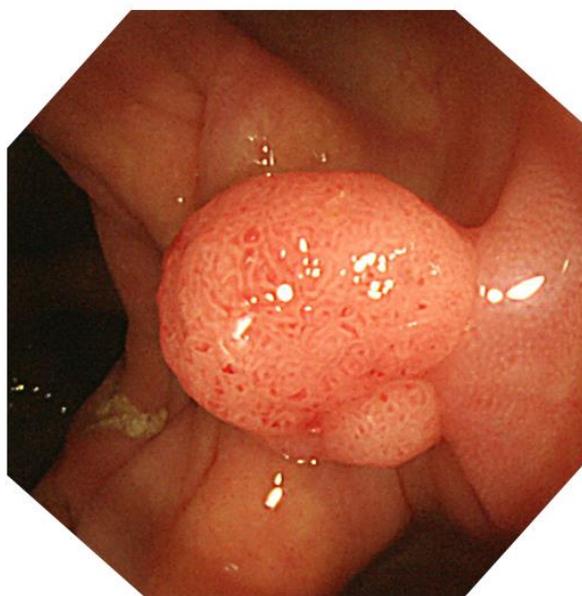
便潜血検査は通常**2回**行います。

1回でも陽性の場合、**大腸カメラ**が必要になります。



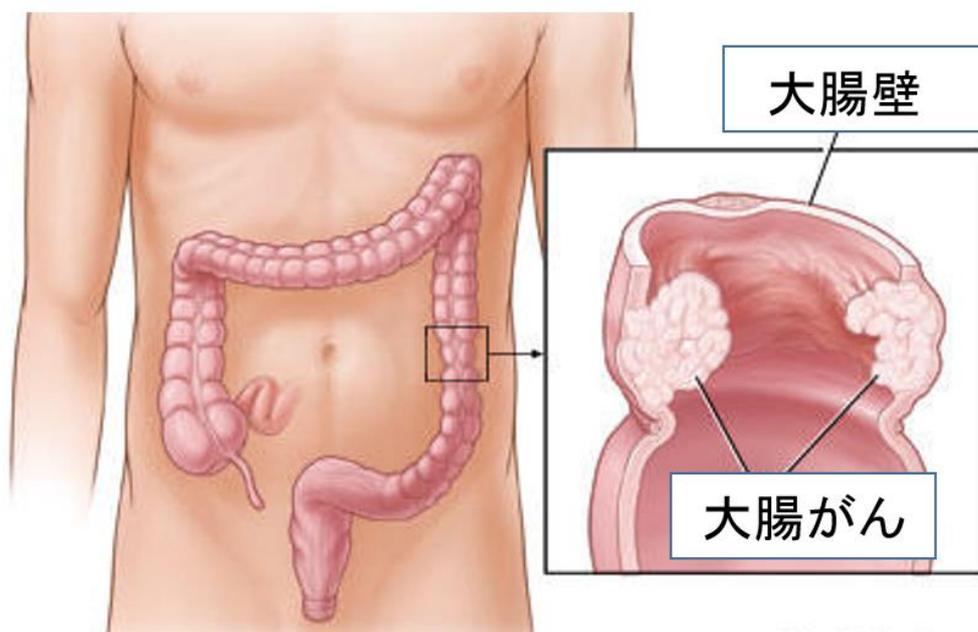
便潜血陽性の方の3～5%に大腸がんがみつかります。

その他、痔やポリープ、大腸憩室症、大腸炎などでも陽性になります。



進行大腸がんでは80%程度が陽性になりますが、早期がんでは50%程度です。

そのため、便潜血が陰性だから大腸がんの心配がないとはいえません。



痔を患っている場合でも、「痔だから陽性になった」とは思い込まずに、必ず精密検査を受けてください。実際にがんが見つかることが多いのも事実です。



●便潜血検査の感度・特異度

- ・感 度；約 60%（報告により 30~90%の幅あり）
- ・特異度；約 90%

ちなみに、「上部消化管（胃や食道）の病気は基本的に影響しません」。一般的に用いられる免疫法は、従来の化学法と異なり、胃・膵液によって変性したヘモグロビンはほとんど検出しないとされています。そのため、上部消化管（胃や食道）からの出血や食物に含まれるヘモグロビンには反応しません。

●便潜血検査の見逃し率について

便潜血検査の偽陰性率は、15.6%です。しかも、見逃された大腸がんのほとんどは、症状がないため、そのまま経過してしまいます。偽陰性と判定された患者さんの 94.0%は便ヘモグロビンが 4 μ gHb/g 未満であり、見逃された大腸がんの60%は近位大腸、

すなわち大腸の奥のほうにありました。

●便潜血陽性後の大腸内視鏡検査の時期 について

大腸がん・進行大腸がんリスクは、8～30日に大腸内視鏡検査を受けた参加者と比べ、2ヶ月目・3ヶ月・4～6ヶ月・7～9ヶ月までに受けた参加者では同等でありました。10～12ヶ月まで遅れた参加者・12ヶ月以上遅れた参加者では大腸がん・進行大腸がんリスクとも有意に上昇しました。便潜血陽性の方は、「半年以内に必ず」大腸内視鏡検査を受けましょう。（JAMA 誌より）

●便潜血陽性で大腸内視鏡検査を拒否し た場合

便潜血陽性で大腸内視鏡検査を拒否する患者さんの割合は 10～30%と報告されています。そのうち、カプセル内視鏡で腫瘍性病変が見つかる割合は60%、CTコロノグラフィで腫瘍性病変が見つかる割合は29%、進行癌で発見される可能性が高いという結果が Endoscopy 誌に報告されています。

● 便潜血検査＋大腸内視鏡による大腸癌の早期診断について

便潜血反応をきっかけに大腸内視鏡検査を行う場合、なんらかの症状をきっかけに大腸内視鏡検査を行う場合に比べて、大腸がんをより早期の段階で発見できることが示されています。便潜血検査＋大腸内視鏡検査では、stage 1 48%。一方、症状＋大腸内視鏡検査では、stage 1 17%。便潜血検査＋大腸内視鏡は大腸癌の早期診断に有効です。

● 便潜血検査＋大腸内視鏡検査後の長期 死亡率低下

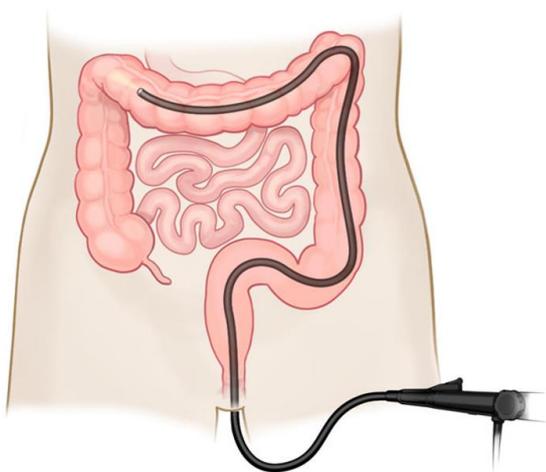
便潜血検査＋大腸内視鏡検査後の大腸癌死亡率の低下は 30 年後も持続し、大腸内視鏡によるポリープ切除の有益性を支持する研究結果が New England Journal of Medicine 誌に報告されました。年 1 回の便潜血検査＋大腸内視鏡検査を行った群の相対リスクは、検査を行わなかった群に比べ 0.68 倍、2 年に 1 回の相対リスクは 0.78 倍でありました。

● 便潜血検査による潰瘍性大腸炎の粘膜 治癒予測

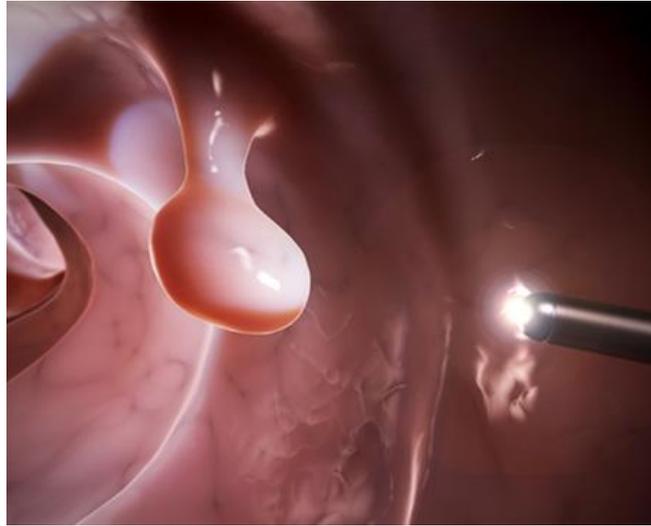
潰瘍性大腸炎（UC）患者の粘膜治癒（MH）予測における免疫学的便潜血検査（FIT）の診断精度を検討した結果が「Journal of

Gastroenterology and Hepatology」誌に報告され、感度 0.77、特異度 0.81 と簡便で信頼性の高いことが確認されました。

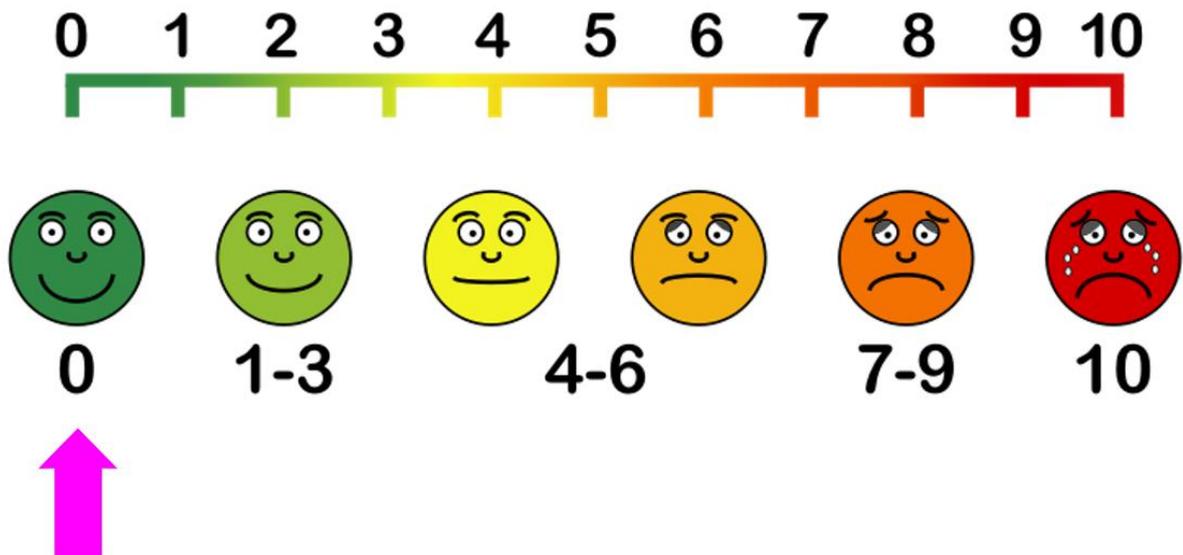
大腸カメラを実施していれば
助かる命がたくさんあります。



大腸がんは早期に発見できれば
内視鏡で完治します。



当院では痛くない大腸カメラ
を実施しております。



ぜひ一度、ご相談ください。



----- 補 足 -----

便潜血検査



異常あり



異常なし



精密検査
(大腸内視鏡検査・注腸X線検査)



がん



異常なし
良性の病変*



治療



1年後の検診



大腸がん検診を受けましょう！

- 大腸がんの死亡者数は、この20年で約2倍になりました。
- 大腸がんは、早期発見・早期治療により90%以上が治るといわれています。
- 早期のがんでは自覚症状がないため、検診を毎年受診することが大切です。

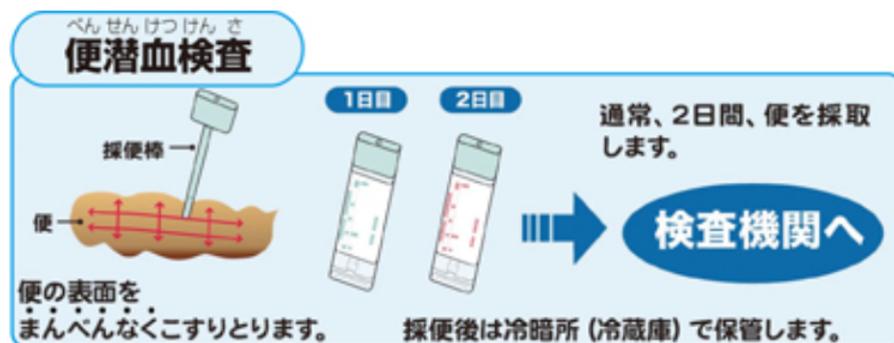
検診の内容

- * 対象年齢は40歳以上です *
- 問診
- 便潜血検査（2日法）

検診が受けられる場所

- お住まいの区市町村での検診
- 職場での検診（実施の有無については、職場にご確認ください。）
- 人間ドックなど

便潜血検査（便中の微量の血液を調べる検査）は、便を採取するだけなので、非常に簡単で、体への負担もまったくありません。この検査は、死亡率を減らすことが証明されている検査方法です。



40歳になったら、1年に1回、大腸がん検診を！



東京都福祉保健局総務部総務課広報係

〒163-8001 東京都新宿区西新宿2丁目8番1号

☎03-5320-4032 FAX 03-5388-1400